

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホームよこび 1F		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目902番地		
自己評価作成日	平成28年12月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=2371400959-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年12月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

忙しく歩んで来られた今までの人生、今からはゆったりのおんびりとした生活の中で、私達は利用者様の意に沿って心を受け止め、温かく対応し…と、よこび理念にあるように、本人本位に考え日々穏やかに笑顔を多く見られるようスタッフ一同努めています。また、近隣に関連施設が3施設あり行事があるたびに交流があり、協力体制も出来ている。内科クリニックも隣接しており、ちょっとした介護ビレッジとなっている。母体病院が精神科ということもあり、精神的ケアも充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がホームでの生活を楽しんでもらうために、一人ひとりの意向に合わせた介護計画の作成と日常的なチェックに取り組んでいる。日常的な支援内容を細かく記録を残し、計画作成担当者が支援内容を数値化することで、細かなモニタリングにつなげている。運営法人では、複数のグループホームの運営を行っていることで、関連ホームと連携した取り組みが行われている。職員研修の際には、関連ホームの職員と合同で行われており、職員の資質向上に向けた取り組みが行われている。運営推進会議についても、関連ホームと合同で開催しており、地域の方や家族との意見交換を行いながら、ホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、ホームには身体状態が重い方も生活しており、食事面での配慮を始めとした取り組みが行われており、生活が継続できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関、事務所内等に理念を掲示、運営理念を共有し、介護にあたるよう努めている。	ホーム名からとっている独自の理念を掲げており、日常的に職員間で意識する取り組みが行われている。また、今年度より、職員一人ひとりに抱負を出してもらい取り組みを始めており、理念の実践につながる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事(夏祭り・敬老会・地区震災避難訓練等)に入居者様と一緒に参加している。また、町内会にも入っている。	地域の方との交流は、関連ホームと連携して行われており、関連ホームでボランティアの方による行事が行われる際には、ホームからも参加している。また、法人事務局を通じた市民講習会の取り組みも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人が代表で、地域の公団の集会場で、介護についての相談会や施設の紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回、町内会長・民生委員・入居者様のご家族・いきいき支援センター職員等の参加があり、運営状況・行事の報告・勉強会等を行い、意見を頂いている。	会議は関連事業所と合同で開催されている。会議の際には、複数の地域の方の参加が得られており、情報交換の機会につながっている。また、会議を通じた勉強会の取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険課の集団指導には必ず出席し、情報を得ている。必要に応じ、電話等で、指導を頂いている。	市の担当部署との情報交換等については、法人事務局を通じて行われているが、ホームからも研修会等への参加が行われている。また、法人事務局からは、地域包括支援センターが行っている家族介護教室の講師を務めており、協力関係をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議で勉強会を行い、意識づけしている。身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠についても、利用者が開閉できる構造であるため、職員間での見守りが行われている。また、研修会の機会がつけられており、定期的な職員の振り返りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関する事例が事務所内に掲示があり、職員どうし常に意識づけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	全体会議で勉強会を行い、資料の掲示も行っている。それらを活用できる場面があれば、より深く勉強し、役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する一連の手続きは、十分に時間をかけ、利用者家族にしっかり説明し納得を頂いている。また、改定等が生じた場合は、書面をもって理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ユーザー評価、外部評価の意見を真摯に捉え、運営に反映させている。また、面会時には必ず声をかけ、意見をしやすいよう努めている。直接言えないことなどを考え、意見箱を設置している。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流の機会につなげている。市のユーザー評価に参加しており、家族からの要望等の把握に取り組んでいる。また、年4回のホーム便りの他、毎月、担当職員による個別の便りの作成も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議、スタッフ会議で提案を出し話し合っている。日々の申し送り時にも、意見交換を行っている。	毎月の職員会議の他、日常的な申し送りを通じた話し合いの時間をつくっており、現場職員からの意見がホームの運営に反映できるように取り組んでいる。また、法人事務局でも、職員から希望を出してもらい機会をつくっており、面談等の対応も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	担当の利用者、担当業務を決め、各自責任・向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験・能力に応じた研修への参加を促している。また、その内容を会議内で報告することで、職員全員で共有すると共に、本人の質の向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修等の参加にて、交流する機会を作っている。勉強会にも参加し、職員と共有できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談にて把握に努め、入居者・家族の要望を聞き、本人本位で安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入時はもちろん、導入後も家族が困っていることがあればお聞きし、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者・家族の必要としているサービスを見極め柔軟に対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	信頼関係の構築はもちろん、残存機能を見極め一緒に行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	問題が発生したら相談し、一緒に解決できるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会・電話・手紙と自由にできるよう支援している。面会時には、いつでも来て頂けるよう声掛けをし、環境づくりに努めている。	利用者により、入居前からの友人や職場の関係の方がホームに訪問している方や行きつけの美容院を継続する等の機会が得られている。また、家族との外出も行われており、利用者の中には一緒に旅行に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を充分把握し、スタッフが中に入りいい関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も連絡を取り合い、様子を伺っている家族もいる。必要時には相談にのり、精神的支えになるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	サービス導入時に、思いや希望・意向を聞き、本人本位に支援できるよう努めている。	職員間で担当制も活用しながら利用者の把握が行われており、日常的な申し送り等を通じた意見交換が行われている。利用者に関する留意事項については、赤ペンを使って表記する工夫を行っており、利用者に関する情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族から情報収集し、職員同士で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや介護記録・バイタルチェック表等にて、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向を重視した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者の状況等にも合わせ、3か月から6か月での見直しが行われており、モニタリングについては、3か月での実施が行われている。また、介護記録用紙に介護計画の内容に合わせた記録を残しており、定期的なチェックにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特変時の記録はもちろん、個別評価の記録・連絡ノートの活用、日々の話し合いで共有しながら実践また、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ニーズ・状況に応じ、医療関係とも連携をとり、柔軟に対応し支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内のお祭り、敬老会、災害避難訓練に参加させて頂いている。買い物の支援、季節ごとの行事、踊り等のボランティアも楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の支援となるが、要望があれば適切な医療を受けられるよう、柔軟に対応している。	母体の医療機関とは、利用者の身体状態等に合わせた支援が行われており、受診支援と医師の訪問診療が行われている。ホームからは整形外科等の対応も行われている。また、週1回の訪問看護が行われており、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設看護師はもちろん、訪問看護師に問題があれば気軽に相談することができ、適切に対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーを活用し、病院関係者と密に連絡を取り情報交換、相談し安心して治療できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態が悪化した場合、ご家族・医師等関係者と話し合い、要望を聞き、最善の介護ができるようチームでの支援に取り組んでいる。	母体の医療機関とも連携しながら、利用者がホームでの生活を継続できるように、看取りを見据えた支援も前向きに考えている。また、家族とも利用者の身体状態等に合わせた話し合いが行われており、ホームで支援可能な取り組みが行われている。	ホームには身体状態が重い方も生活しており、食事面での配慮も必要になっている。職員間での検討等を継続し、ホームでの生活が継続できることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全体会議で研修を行い、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災避難訓練を年に3～4回、夜間・日中の想定を交互に行っている。地震を想定した訓練も実施している。	避難訓練についてはホーム単独で実施しているが、関連ホームとの連携にも取り組んでいる。地震と火災を想定し、利用者も参加することもある。また、備蓄品については、ホーム単独での管理と法人での管理が行われている。	避難訓練については、関連ホームとの合同での実施からホーム毎の訓練に移行している。近隣の方との協力関係も含め、ホームの継続した取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけには十分に注意している。特に、排泄時声掛けには十分配慮した対応を心掛けている。	職員による利用者への声かけ等の対応で気になった際には、管理者やリーダーより、日常的に注意を促す取り組みが行われている。また、関連ホームとの接遇面に関する研修会の機会がつけられており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定できるような言葉かけをするよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れは決まっているが、入居者のペースを大切に、希望にそった支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度、理美容で希望にそった髪型にして頂いてる。日常着も何を着たいか聞くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に数回のクッキングで、入居者様にメニューを選んでいただき、一緒に作り楽しむ支援をしている。テーブルふき、下膳、食器洗いと役割を決め、利用者どうしがささえあいながら生活できるよう支援している。	食事の提供に関しては、配食業者からの提供が行われているが、職員シフト等をみながら、職員がキッチンで調理を行う日を設けている。また、日曜日にはおやつ作りの日としている他にも、身体状態に合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎回の食事量、水分量は記録し不足している場合には、補助食品にて確保している。また、疾病等一人ひとりに応じた食事の提供をしている。(減塩、糖尿職、キザミ、ミキサー食、ソフト食)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、入居者に応じた口腔ケアを行っている。週に1度、訪問歯科に来て頂き、相談・指導していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、その日の状況に応じて誘導・介助、トイレでの排泄ができるよう、支援を行っている。必要に応じ、ポータブルトイレの設置も行っている。	排泄記録に関しては、利用者の身体状態等にも合わせながら記録を残しており、申し送りと合わせて連携につなげている。また、医療面での情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた対応が行われており、ホーム前の調剤薬局との連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表があり、排便確認を行っている。食事量、水分量に気を付け、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日時間とある程度決まっているが、本人の希望・体調に合わせた対応をしている。	入浴については、利用者の意向や状況等に合わせ、1日おきの週3回行われており、時間も夕方に行われている。また、身体状態に合わせた職員複数での対応も行われている他にも、季節に合わせた柚子湯等の取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やし、良い睡眠がとれるよう支援している。休息も個々に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報にて、服薬の把握に努めている。誤訳のないよう二重三重のチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物、散歩、外気浴等の支援をしている。また、能力に応じたお手伝いも職員と一緒にしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日曜日には、買い物の日として入居者様と一緒に出掛けている。年に一度の遠足や年に数回の外食・行楽を企画し、楽しんで頂いている。	ホームでは、日常的に外出の機会をつくっており、毎週日曜日については、利用者との買い物等の外出にあてる取り組みが行われている。また、定期的な外出行事の取り組みも行われており、季節に合わせた花見等に出かける機会もつられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している入居者はおらず、家族の了承の元施設で管理している。おこづかい帳があり、月末には、本人、家族と確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話ができるよう支援している。知人・友人からの手紙も来ており、本人にお渡しし読んで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月入居者様と壁面の飾り作りをしている。入居者全員に季節に応じた習字を書いて頂き玄関に展示している。トイレ、浴室とわかりやすいよう工夫し安心して過ごせるよう配慮している。	ホーム内はゆったりとした広さが確保されており、利用者が好みの場所で過ごすことができる。窓が大きいことで開放感のある空間となっている。また、リビングの壁には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席、ソファと自由に楽しく過ごして頂いている。居場所が自然に決まってきた、本人にとって、安心できる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具を持参して頂いている方もいる。居室には、家族写真・自己作品を飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。	居室には収納スペースが確保されていることで、居室を広く活用することができる。利用者や家族の意向等に合わせた家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりが過ごしやすい居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレがわかりやすいよう工夫している。居室前にはネームプレートがあり、写真・手作り作品が飾られている。手すりを利用しリハビリを行っている。		